

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	画像工学		
科目基礎情報								
科目番号	0156			科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	機械・電気システム工学専攻（制御情報工学コース）			対象学年	専1			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	教科書：佐藤 淳, コンピュータビジョン-視覚の幾何学-（コロナ社） 参考書：金谷健一, 画像理解-3次元認識の数理-（森北出版）, 参考書：徐 剛, 辻 三郎, 3次元ビジョン（共立出版）, 参考書：出口光一郎, ロボットビジョンの基礎（コロナ社）							
担当教員	黒木 祥光							
到達目標								
1. 様々な射影法とカメラモデルについて説明できる. 2. 様々なカメラにおける変換群について説明できる. 3. エピポーラ幾何について説明できる.								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	様々な射影法とカメラモデルについて説明できる.			様々な射影法とカメラモデルについて示すことができる.		様々な射影法とカメラモデルについて示すこともできない.		
評価項目2	様々なカメラにおける変換群について説明できる.			様々なカメラにおける変換群について示すことができる.		様々なカメラにおける変換群について示すこともできない.		
評価項目3	エピポーラ幾何について説明できる.			エピポーラ幾何について示すことができる.		エピポーラ幾何について示すこともできない.		
学科の到達目標項目との関係								
JABEE B-1								
教育方法等								
概要	画像情報は単なるメディアの一つではなく、工学において、非常に重要な外部情報とみなすことが出来る。本科目では、2次元のデータであるデジタル画像と、3次元の実世界との対応関係、いわゆるコンピュータビジョンの基礎知識の習得を目的とする。							
授業の進め方・方法	授業は配布プリントおよびスライドにて説明を終えた後、数名の班に分かれて与えられた課題に取り組んでもらう。受講生には必要に応じて本科で学んだ線形代数、応用数学の復習を希望する。本科目は学修単位であるため、授業外学修として課題の提出を義務付ける。							
注意点	履修にあたり、数学、特に線形代数と確率統計の知識を必要とする。 評価方法の詳細 期末試験100%として評価する。ただし、未提出の課題がある学生は60点未満の評価とする。 （評価基準：60点以上を修得とする。） 再試験を行う。60点以上を合格（60点）とする。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	概要説明、投影とカメラモデル		投影とカメラモデルについて説明できる。			
		2週	斉次座標と射影幾何		斉次座標と射影幾何を説明できる。			
		3週	線形代数の復習（線形部分空間、線形写像、行列の階数）		線形部分空間、線形写像、行列の階数について説明できる。			
		4週	透視カメラと射影カメラ		透視カメラと射影カメラについて説明できる。			
		5週	弱透視カメラとアフィンカメラ		弱透視カメラとアフィンカメラについて説明できる。			
		6週	変換群		群の公理と各種変換群について説明できる。			
		7週	不変量		アフィン変換と射影変換の不変量について説明できる。			
		8週	カメラモデルと不変量に関するまとめ		カメラモデルと不変量に関するまとめ			
	4thQ	9週	エピポーラ幾何とは		エピポーラ幾何の概念を説明できる。			
		10週	Essential行列とFundamental行列		Essential行列とFundamental行列について説明できる。			
		11週	F行列の求め方		F行列の求め方について説明できる。			
		12週	アフィンカメラと並進カメラのエピポーラ幾何		アフィンカメラと並進カメラのエピポーラ幾何について説明できる。			
		13週	校正済みカメラによる形状復元		校正済みカメラによる形状復元について説明できる。			
		14週	カメラの校正		カメラの校正について説明できる。			
		15週	エピポーラ幾何とカメラの校正に関するまとめ		エピポーラ幾何とカメラの校正に関するまとめ。			
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
専門的能力		分野別の専門工学	情報系分野	その他の学習内容	メディア情報の主要な表現形式や処理技法について説明できる。		3	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50	
専門的能力	40	0	0	0	0	0	40	
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10	